

毎月三日六日九日十二日十五日十八日二十一日二十四日二十七日三十日十四發行)

縣報 第二百七十三號 明治卅六年十二月十五日 和歌山縣

○公文

○和歌山縣令第九十三號

神社寺院佛堂境內地使用取締規則左ノ通り相定ム

明治三十六年十二月十一日
和歌山縣知事 伯爵 清 橋 家 敬

神社寺院佛堂境內地使用取締規則

第一條 神社寺院佛堂境內地使用爲サントスルモノハ明治三十六年十一月内務省令第十二號神社寺院佛堂境內地使用取締規則第二條ノ各項ヲ具備シタル願書ニ其神社寺院佛堂所 在地ニ於テ公民權ヲ有スル者貳名ヲ保証人トシ連若當廳ヘ差出スヘシ

第二條 前條ノ許可ヲ得タル者使用地内ニ諸設營物ヲ爲スモノハ成功ノ上圓面ヲ添付シ當廳及其神社寺院佛堂ヘ届出ヘシ

第三條 使用地内ト雖モ其設營物ノ提携換又ハ新規ニ設營ヲ爲サントスルトキハ第一條ノ手續ニ準據シ出願スヘシ

第四條 使用地内ハ勿論其周圍ト雖モ不潔ナラサル様常ニ掃除ヲナレ且塵埃ヲ飛散セサシ様時々淨水ヲ潤キ又ハ降雪ノトキハ之ヲ除去スヘシ

第五條 使用地ハ他人ニ轉貸又ハ設營物ヲ賣買賃リ渡シ等爲ストラ禁ス但代替リノトキハ行シ其費用ヲ辨償シシムヘシ

第六條 設營物ノ取拂ヒ又ハ使用ノ禁止ヲ命セラレタル場合ニ於ケル損害ハ地所使用者ノ負擔トス

第七條 使用ノ禁止又ハ設營物ノ改造撤却等命セラレタルトキハ其命令ノ日ヨリ七日以内ニ着手シ取拂ヒニ屬スルモノハ二十日以内ニ取拂ヒ地所ヲ元形ニ復シ其旨當廳及神社寺院佛堂ヘ届出テ當該管理者ノ検査ヲ受クヘシ若シ之ヲ怠ルトキハ神社寺院佛堂ニ於テ施

第八條 設營物ノ取拂ヒ又ハ使用ノ禁止ヲ命セラレタル場合ニ於ケル損害ハ地所使用者ノ負擔トス

第九條 使用地ニアル設營物等ノ番人ヲ置カントスルトキハ神社寺院佛堂ノ認可ヲ受クヘシ但婦女ヲ宿泊セシムルコトヲ禁ス

第十條 使用料ハ必ラス神社寺院佛堂ノ管理者ニ前納スヘシ
第十一條 神社寺院佛堂ニ於テ境内使用料ヲ徵收シタルトキハ官國幣社ニ在アヘ託入金日計簿ニ其他ノ神社寺院佛堂ニ於テハ金數出納簿ニ記入シ其帳簿ト契章ヲ押捺シタル領收証書ヲ附與スヘシ

第十二條 本令ハ建物アル盜拜所ノ境内ニ付フモ之ヲ適用ス
第十三條 本令ニ依リ當廳ヘ差出ス願届書ハ神社寺院佛堂所在地ノ市町村長郡長ヲ經由ス

ルモノトス

第十四條 本令ニ抵觸スル禁制ノ令規ハ廢止ス

○和歌山縣告示第四百二十三號

來ル十二日ヨリ十五日間左記砲臺ニ於テ實彈射擊施行セラルヘキニ付試砲臺ヲ中心トシ海

上画八千米突以内ノ區域ハ危險界ニ屬シテ以テ警戒スヘシ

明治三十六年十二月十日

和歌山縣知事 伯爵 清 樹 家 敬

一由良南方生石山砲臺

一龜貝町ト門崎間ノ砲臺

一射擊ヘ午前七時ヨリ午后四時迄トス

一射擊開始第一日ニ於テ空砲一發ヲ放砲ス

一射擊中ハ警戒ノ爲誤認者ニ赤旗ヲ掲ケ射擊終レハ之レヲ卸ス

○和歌山縣告示第四百二十四號

本月十三日ヨリ十五日間(雨天順延)由良要塞生石砲臺ニ於テ實彈射擊施行セラルヘク就ア

ハ左記海面ニ對シ危險ノ虞ナキ様警戒スヘシ

但シ射擊當日ハ發射間該砲臺上ニ赤旗ヲ立テラル

明治三十六年十二月十日

和歌山縣知事 伯爵 清 樹 家 敬

生石山ヨリ友島北端ニ至ル線ト日ノ御崎ニ至ル線トノ間ニ於ケル海面

○辭 令

縣報第二百七十三號

明治三十六年十二月十五日

第三種郵便物認可 三

○明治三十六年十二月十日

給月俸拾參圓

(各 通)

和歌山縣那賀郡書記 古 岳 竹 次 郡

給月俸拾貳圓

(各 通)

和歌山縣那賀郡書記 居 谷 佐 五 兵 衛

給月俸拾壹圓

(各 通)

和歌山縣那賀郡書記 田 井 幸 平

○町長ノ異動

右十二月十日認可

有田郡筭島町長

山 本 順 太 郎

○觀 測

明治三十六年十二月十日ヨリ三日間當地氣象概況

月	日	十二月十日	十二月十一日	十二月十二日
種類	前年	本年	前年	本年

